

# 第27回東北を考える会総会・研修会を開催しました。

2026年3月4日

東北土を考える会は、2月19~20日の2日間に渡り、岩手県花巻市にて総会・研修会を行いました。今回は、『東北の土を学ぼう』と題して、土壌研究の第一人者である福島国際研究教育機構・土壌ホメオスタシス研究ユニットリーダーの藤井一至氏を講師にお招きし、土壌の成り立ちに加えより深い視点から土壌を捉え直すお話をいただきました。さらに事前に「私たちが考える『土』」と三つの要素（物理性・化学性・生物性）をテーマにしたアンケート集計をもとに、清水一孝会長がファシリテーターとなり、藤井氏も参加してのディスカッションも行われました。



藤井一至氏



※物理性：団粒構造で排水性、保水性、通気性、易耕性のバランスが良い  
 化学性：栄養素やpH、塩類濃度などが適切な状態  
 生物性：有機物やミミズ、微生物などが豊富で、活動が活発な状態

| NO. | 質問（抜粋）        | 最多の回答         | NO. | 質問（抜粋）           | 最多の回答 ※回答人数 31名      |
|-----|---------------|---------------|-----|------------------|----------------------|
| Q1  | 栽培中の主な品目・体系   | 水稻（移植栽培）      | Q5  | 最も力を入れ取り組んでいるものは | 物理性                  |
| Q2  | 水稻（移植）の平均反収   | 524kg/10a(平均) | Q6  | 最も取り組みやすいものは     | 化学性                  |
| Q3  | 水稻（乾田直播）の平均反収 | 460kg/10a(平均) | Q7  | さらに深めたいものは       | 生物性                  |
| Q4  | 最も重要な要素は      | 物理性           | Q8  | 三要素の関係性について      | 物理性が整ってこそ化学性・生物性が生きる |

## 令和7年度農林水産祭 農産・畜産部門 天皇杯受賞

### 受賞理由

- ①先駆的なスマート農業技術の導入**  
ほ場生産管理システムや栽培管理支援システム、ドローン、自動操舵システムの導入。
- ②女性の活躍**  
代表の長女と次女が同社に就職。大豆や水稻の各作業の他、事務経理・SNS発信など広報活動でも活躍。
- ③農地の集積**  
集積農地の約3分の1を集積。その大半は自社から2km圏内に。
- ④「里のほほえみ」の栽培**  
令和4~6年の平均単収は313kg/10a、令和6年度の一等比率は99.5%で高収量かつ高品質な生産を行う。



押野和幸氏

その後、スガノ農機よりドイツのハノーファーで行われたアグリテクニカ 2025 の視察報告が行われ、次に、天皇杯を受賞された山形県の株式会社 おしの農場代表の押野和幸氏が受賞理由を語っていただき、「土を考える会には、感謝しかない、どんな人と出会えるか、関われるか、人生にとってはとても大切です。」と結んでいました。



参加いただいた9メーカーのご挨拶

翌日は、総会が行われ活動報告および今後の事業計画を審議・承認するとともに、新規会員の紹介が行われました。ご参加いただいた皆様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

今後とも東北を考える会の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



総勢97名が参加(土を考える会会員様 46名、一般参加者様22名、メーカー様10名、行政・企業様7名、事務局11名、講師1名)